

2020年度中部大学学位記授与式

静まりかえったキャンパスでこのメッセージを書いています。今日は晴れてはいましたが、今は空気が冷えています。日中は日差しが強く、風はあったものの、過ごしやすかったです。

本日は、学位記授与式でした。卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。今年度の学位記授与式は、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し、例年とは異なる形で規模を縮小して開催しました。式には卒業生・修了生のみ出席し、保護者の方や在学生には式の様子をライブ配信となりました。講堂での全体会終了後、学科に分かれて学位記の伝達が行われました。学位記を受け取る卒業生の顔には、立派に成長した自信と誇りが感じられました。ゼミ生が訪問してくれ、最後の談笑を外でしました。国家試験勉強の苦労話や、卒業単位が危なかった話など、生々しい話題もありましたが、笑うことができました。マスク越しでしたが、笑顔になれ、幸せな時間を過ごすことができました。素敵なお花やネクタイを頂戴しました。お花は自宅の玄関に飾ります。ネクタイ、大切にします。ありがとうございました。大学院生も2人が修了を迎えました。専門性を活かして、活躍を願っています。



学位記授与式の様子

この1年、世界中が新型コロナウイルスに翻弄され、今もその対応は続いています。コロナ禍にあったこの一年、様々な活動に制限がかけられる中、現実をしっかりと受け止め、力強く歩もうとする皆さんの姿が随所に見られました。これまであたりまえだった大学生活を送れない日々が続き、4月からの授業開始は延期となりました。5月になり、ようやく授業が開始されました。しかし、現状では元通りの大学生活に戻すことには大きなリスクがありました。授業はリモートで行われたため、多くの下宿生は、「寝る・食べる・勉強する・遊ぶ」全ての空間が、全く変わらず、知人もいない孤立状態だったわけです。先日、マスメディアの特集で、リモート授業であれば東京にいる必要がないからと実家に戻り、結局学校を辞めた学生さんが紹介されていました。さらに、実家でリモート授業を受けていて、誰も住んでいない家賃を払い続けている学生さんもいるようです。残念なことに、精神的に追い詰められた学生も多くはありますが、把握されています。同じく、メディアを見ていたら、街中に出かけ、感染してくる若者が一定数存在するとの報告でした。確かに、社会における若者の感染者数は多いまです。若者の間でコロナウイルスへの価値観の違いがあるように感じました。11000人を超える学生が生活する中部大学では、多くの学生が、“感染しない、感染させない”を実現させました。

今回の新型コロナウイルス感染症はピンチです。しかし、ピンチはチャンス！見方を変えれば、今回の出来事は、新しい時代への変革を加速するものかもしれません。今回の経験は、皆さんの今後の人生において、大きな学びとなることでしょう。そして、その学びは、皆さんの人間としての幅を広げてくれることでしょう。

本日、卒業の日を迎えた皆さんは、多くの人が、明日から「社会」という次のステージへと歩を進めていきます。どうか、感謝の気持ちや忘れず、人の痛みを感じ取れる「豊かな感性」と、冷静に考え行動できる「本物の知性」を持ち続けてください。4月以降も中部大学で大学生活を送るみなさんは、今一度、自分を見つめ直し、将来のあるべき姿、進むべき姿を描き、その姿に向かって進んで欲しいと思います。

最後に、この1年、ありがとうございました。学生サポートセンターも前身のcommonsオープンから数え、6年が経過致しました。外部評価を受審し、概ね良好であるとの評価をいただきました。これからも、特徴あるcommonsを創造していきたいと思っています。どうぞ、よろしく願い申し上げます。

学生サポートセンター長 伊藤守弘



大学院の修了生と



学部の卒業生と(1)



学部の卒業生と(2)